

執筆担当	所在地	畜種	キーワード
長野支場 種苗業務課	長野県 佐久市	山羊	エンリッチメント、アニマルウェルフェア、廃材の活用、ケガ防止

子山羊に対するエンリッチメント等の取組について

<要約>

離乳前の子山羊を飼養する際には、パドックに遊び場としてブロックや廃タイヤを設置しています。見た目にかわいらしいだけでなく、環境エンリッチメント又はエンリッチメント玩具として子山羊の発育やストレス解消にも役立ち、アニマルウェルフェアに配慮できます。なお設置の際は、山羊が挟まれないようすき間を埋めるなど、ケガなどに気を付ける必要があります。

1. はじめに

(独) 家畜改良センター長野支場では、民間等における山羊の種畜生産供給体制を支援するために、精液や育種改良素材の提供、また飼養管理等に関する技術提供等を行っています。

当场では離乳前の子山羊をパドックで飼養しています。夜間は舎内に居ますが、朝の哺乳が終了した後から夕の哺乳まではパドックで元気に駆け回っています。例年テレビ局等の取材が複数あり、天気がいい日には近隣住民の方が外から眺めていることも多く、市の観光スポットとしても紹介されています。

今回は当场における、子山羊に対するエンリッチメント等(※)の取組をご紹介します。

※エンリッチメント…ここでは、家畜の通常の行動様式の発現を促し、快適性を確保するために行われる工夫のことを示しています。

2. 子山羊に対するエンリッチメント

(1) 山羊の行動欲求

元来山羊は山岳地帯に生息する動物で、高所を好む傾向にあるといわれており、急勾配の崖や時に高い木に登ることも知られています。特に子山羊は、活発で好奇心旺盛なこともあり、よりその特徴を感じさせられます。そのため、私たちは子山羊のパドックに遊び場として高所の設置を試みています。



左：柵を乗り越えようとする成山羊 右：乾草の上に乗る育成山羊

（２）取組方法等

使い古しのコンクリートブロックやタイヤなどを活用しています。子山羊が動かせない程度の重さであれば基本的に何でもかまいません。重量が足りなければなんらかの手段で固定するなどの工夫をしましょう。当场では子山羊の発育に合わせて、高さや大きさの異なるものをいくつか用意しています。

設置する際の注意ですが、すき間を作ってしまうとケガの原因となるため、複数設置する際は密着するようにしましょう。ケガの対策については後述します。

また、高さによっては脱走経路となりかねないため、柵からやや離して設置することも必要です。



ブロックを活用した例



タイヤを活用した例

3. 施設の隙間によるケガ防止策

子山羊は活発で身軽であるため、捻挫や外傷の発生に十分気を付ける必要があります。特にちょっとしたすき間に足が引っ掛かりケガをすることが無いように配慮することが大切です。

そのため、飼養場所では子山羊の足がちょうど入る程度のすき間は何らかの手段で埋めておくべきです。ゴムシートやベニヤ板、棒やホースの切れ端など、身近にあるもので構いません。すき間が大きければ挟まっても自力で抜け出せますが、脱走の可能性があることにも注意が必要です。



【身近な資材で隙間を埋めた例】左：ホース 右：ゴムシート

4. 最後に

今回は子山羊の遊び場設置とケガ防止策について簡単に説明しました。

子山羊の遊び行動は非常に愛くるしいことはもちろん、安全な環境が用意できれば、子山羊にとってもプラスになることと思います。ぜひ取り入れていただき、良き山羊ライフをお送りください！